

Encuentro de Profesores de Español en Kansai

「関西スペイン語教師の集い」（第46回関西スペイン語教授法ワークショップ）

2011年2月6日（日）

Taller 4 「練習問題集をデザインする」

平田和重

試験問題は、教師が測ろうとする（つまり評価する）能力と妥当な関係にあるべきだ。練習問題にも同じ「妥当性」の問題はついてまわるはずである。そこで発表者は、現在作成中の教科書付録練習問題集について「評価」という問題と結びつけて発表することにした。

ただし発表者の準備・経験不足から大会のテーマに発表を関連づけるところまで至らず、お詫び申し上げたい。

具体的な報告および質疑応答の内容を記す。

まず、練習問題集が使用される授業全体の目標から、練習問題に求められている要素をまとめた。特に1) 文脈で考えるべき問題を入れたい、2) 語彙力やスペイン語圏の知識などを発展させたい、という

点を強調した。次に教科書の1課分の練習問題の構成・フォーマットを参加者で話し合ってもらおうとした。

その際、クラス規模、解答を配布するか否か、学生全員に配布／購入させるか等具体的な使用状況について質問や提案が相次いだ。また、フォーマットにこだわるとつまらない練習問題になるのではという指摘が出た。ただし習熟の段階に沿って展開にしていく構成にしないと学生は解答できない、だから難易度の発展段階を考慮した構成にするべきという指摘もなされた。こうした質疑、提案への発表者の回答が曖昧になったこともあり、想定外の時間を費やしてしまった。

最後に初学者向けの授業で、1) 基数詞 1,000,000 まで、2) 動詞 hay、3) estar と hay の使い分け、4) 疑問詞 cuánto を学習する課に対応する練習問題をグループごとに考えてもらった。その際、ser / estar + 形容詞は既習事項、規則活用動詞は未習という条件を課した。短い時間にも関わらず、各グループより4つの要素を巧みに取り込んだ文脈の案を提供していただき、ひじょうに参考になった。

残念なことに、こうして作成される練習問題の「妥当性」についてどのように測るべきか等、話し合いをもつ時間は既に残っていなかった。それはこれから問題集を作成する発表者が背負う課題である。

ひじょうに有益なアドバイスを多数いただき厚く御礼申し上げます。